

小施策評価シート (平成 28 年度実績評価)

施策コード	17	施策名	子どもの教育の充実	
小施策コード	17-4	小施策名	教職員研修の充実	
小施策 主管課等コード	203000	小施策 主管課等名	学校教育課	
評価責任者名	小山田 秀次		内線番号	7330
評価シート作成者名	藤井 英夫		内線番号	7332

Step 1 施策目標の達成状況

まちづくり指標	目指す方向	単位	25年度 実績 (当初値)	27年度 実績	28年度 実績	31年度 目標値	36年度 目標値
小中学校学力検査の全国水準 (100)との比較【小学校4年生・国語】	↑	ポイント	110.6	110.4	110.6	113.0	113.0
小中学校学力検査の全国水準 (100)との比較【小学校4年生・算数】	↑	ポイント	108.4	107.4	107.0	110.0	110.0
小中学校学力検査の全国水準 (100)との比較【中学校2年生・国語】	↑	ポイント	103.8	105.0	105.8	107.0	107.0
小中学校学力検査の全国水準 (100)との比較【中学校2年生・数学】	↑	ポイント	102.2	101.4	102.2	105.0	105.0
小中学校学力検査の全国水準 (100)との比較【中学校2年生・英語】	↑	ポイント	103.2	104.2	104.2	105.0	105.0
体力運動能力調査の全国水準 (100)との比較【小学校5年生・男】	↑	ポイント	97.8	99.7	97.8	101.0	101.0
体力運動能力調査の全国水準 (100)との比較【小学校5年生・女】	↑	ポイント	100.5	100.1	99.5	101.0	101.0
体力運動能力調査の全国水準 (100)との比較【中学校2年生・男】	↑	ポイント	100.4	99.9	101.0	102.0	102.0
体力運動能力調査の全国水準 (100)との比較【中学校2年生・女】	↑	ポイント	100.2	100.1	100.0	102.0	102.0

(↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げていくことを目標とする指標， →：数値を維持することを目標とする指標)

Step 2 小施策の全体像

小施策の概要等（構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり）

対象（誰（何）を対象として行うのか）		意図（対象をどのようにしたいのか）
教員		誠実公正でかつ指導力が向上されている。
現状と課題	学校の教育課題は年々複雑・多様化していることから、職能・経験年数や教育課題に応じた幅広い研修を実施し、教職員の資質や指導力の向上を図る必要がある。	
取組の方向性	日々の教育実践に必要な教職専門職としての研修を行い、教職員の資質や指導力の向上に努め、教育の質的向上を図る。	

Step 3 小施策指標の推移

小施策の指標	目指す方向	単位	25年度実績 (当初値)	27年度実績	28年度実績	31年度目標値	36年度目標値
教育研究所公開講座参加者数	→	人	602	624	666	650	650
公開講座参加者の満足度	→	%	99.7	99.0	99.7	100.0	100.0

（↑：数値を上げていくことを目標とする指標，↓：数値を下げていくことを目標とする指標，→：数値を維持することを目標とする指標）

Step 4 市民ニーズの把握

教職員が研修を受講することにより、教職員の資質向上が図られ、指導力が向上する結果、市全体の教育の質的向上が図られることから、学力・体力の向上、豊かな人間性の形成及び教育の機会均等など多様な市民ニーズに応えるためには市として継続して取組んでいく必要性が大きい。

Step5 役割分担分析

1 各主体の役割の状況

		役割の内容	役割分担 比率（％）
各主体の 役割の状況	市	盛岡市が中心的な役割を担う。	60
	国・県・ 他自治体	教職員は積極的に研修を受講する。	30
	市民・ NPO		
	企業・ その他	専門分野を生かして研修の講師として協力する。	10

2 今後の市の役割の比重の方向性とその理由

- ☐ 市の役割の比重を拡大していくことを検討する
☒ 現状維持（現在の市の役割の比重を維持する）
☐ 市の役割の比重を縮小していくことを検討する

（理由）

市の教育課題である一般研修等の実施と、県に委託して経験年数に応じた資質向上のための研修を行う事業であることから、現状維持とするもの。

Step6 前年度に分析した課題・改革改善案に対するアクション

1 平成28年度に分析した問題点・課題に対する改革改善案

公開講座や教育研究所発表大会の機会をとらえ、研修内容に関するアンケートに、教職員のニーズを把握できる項目を加え、実施する。

2 1の改革改善案の実施状況

（A：着手済，B：平成29年度に着手（予定含む），C：未着手または見送り）

改革改善案	具体的な取組（予定）内容	状況
教職員の研修内容に関するアンケートを実施する。	公開講座及び研究発表大会の際に、研修の満足度のほか、今後開催希望の研修についてニーズを把握した。	A

3 2で挙げた取組状況がCの場合、その原因

Step 7 成果・問題点の把握

1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

(1) 小施策の中で成果をあげた点

研修の受講により，教職員の資質向上が図られた。

(2) 成果をあげた要因

教職員が，自らの課題や経験年数に応じた研修を受講する内容となっているため。

(3) さらなる成果向上に向けた課題（課題がある場合に記載）

研修内容にかかるニーズの把握

2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定

(1) 小施策における現状の問題点

様々な教育課題が山積する中，公開講座，各研修会等において，研修内容に対する満足度の把握は行っているが，今後受講したい内容等，研修する教職員のニーズの把握が不足している。

(2) 現状の問題点が生じている原因

研修内容に関するアンケート方法が画一化されているため，研修する教職員のニーズに関する意見を十分に聞くことができていない。

(3) 分析した原因の解決に向けた課題

研修内容に関するアンケートの改善と実施

Step 8 小施策と構成事業の関係性

1 小施策との結び付きが弱い，もしくは他の事業と重複していると考えられる事業

該当事業なし。

2 1で記載した事業についてその理由

3 1で記載した事業の今後の方向性（案）（縮小・廃止・統廃合等）

Step 9 Step7, 8を踏まえた改革改善案

- ・ 公開講座、研究発表大会の機会をとらえ、継続して研修者のニーズの把握を行う。
- ・ 把握した研修者のニーズを、研修内容や研修の運営方法に反映させ、改善点についての意見の聴取を行う。